

## 垂井町まち・ひと・しごと創生総合戦略会議（第4回）

▽日 時 平成27年10月28日（水） 10:00～12:00

▽場 所 庁舎3階 大会議室

▽出席者（順不同、敬称略）

早瀬委員、川瀬委員、伊藤委員、小林委員、小川委員、佐伯委員、佐藤委員、臼井委員、久世委員、森崎委員、西川委員、栗田委員、河合委員、末政委員、牧野委員

▽欠席者（順不同、敬称略）

山本委員、戸倉委員

▽事務局（順不同、敬称略）

栗本、小川、小山

▽議題等

- (1) 垂井町人口ビジョンについて
- (2) 垂井町まち・ひと・しごと創生総合戦略について
- (3) その他

### 開 会

事務局： 「第4回垂井町まち・ひと・しごと創生総合戦略会議」を始めさせていただく。では、はじめに早瀬委員長よりごあいさつをいただく。

▽あいさつ

委員長： 6月から審議会が始まり、今回で4回目の戦略会議である。この会議の他にも、ワークショップ、アンケート調査、パブリックコメントもあり、短期間の中で作業であった。本日は最後の会議であり、もう少し時間があれば、という思いもあるが、住民意見や2060年の将来の垂井町への想いを反映できればよいと思っている。時間の制約がある中で、ここまでつくりあげられたことは、委員の皆さまと事務局のご尽力のおかげである。本日発行の「広報たるい」11月号にも地方創生に関する総合戦略の記事がまとめて紹介されている。推進に向けては、住民・企業・役場と一体になって取り組むべきである。

本日は今までの議論を踏まえ、取りまとめをする会議となるので、よろしく願いしたい。

事務局： では、本日の議題に入らせていただく。それでは垂井町まち・ひと・しごと創生総合戦略会議設置要綱第6条第1項の規定により、進行を早瀬委員長にお願いしたい。

▽議題

- (1) 垂井町人口ビジョンについて
- (2) 垂井町まち・ひと・しごと創生総合戦略について

委員長： 郵送にていただいた会議次第がお手元にあると思う。それでは「議題（1）垂井町人口ビジョンについて」及び「議題（2）垂井町まち・ひと・しごと創生総合戦略について」は関連

しているため、一括して事務局よりご説明をいただき、その後、まとめてご意見等をいただきたい。

〈事務局〉

《資料について説明》

- 委員長： 説明を2回もしていただいたので、一段と理解が深まったと思う。事務局には分けて説明をしてもらったが、私共としては通して説明をしてもらった方が分かりやすかった。今回はまとめの会であることを意識しつつ、ご質問や確認点、お気づきの点等をご発言いただきたい。
- 委員： 本日の会議以降の、今後の流れを確認したい。説明をお願いします。
- 事務局： 本日は4回目の会議となるので、最終的なご意見を頂きたい。午後からは、職員により立ち上げられたプロジェクトチームへの説明がある。今後は、副町長以下の担当課長による庁内の検討委員会で、最終的な町の方向性とビジョン・戦略について決定をしていく。そして経営会議で、皆さまから頂いたご意見で策定した、戦略とビジョンの承認を得ることとなる。目標であった10月末までの計画策定が達成されようとしている。本年度に関しては事業を進めていく。平成28年度については、今後、予算化した事業を進めていき、平成28年度の頭に、平成27年度の検証をしていく。皆さまは委員としての任期があるので、ご意見を頂きたい。引き続き、皆さまから情報を頂きながら進めていくので、よろしくお願ひしたい。
- 委員： では、第1回目のチェックは平成28年の4月以降となるのか。人口ビジョン(案)にはPDCAサイクルに基づき随時改訂するとあるが、1回目の確認は平成28年の4月以降で、年に1回、会議を行うと考えていいか。
- 事務局： 大企業が垂井町に来るなどして人口が大きく増加するような場合を除き、人口ビジョンについて変更はないと思っている。総合戦略については随時、見直しをかけていく。
- 事務局： 第5次総合計画も終わりが近づき、来年度からは第6次総合計画を策定することとなる。本日策定した内容も、検証していく。第6次総合計画は10年計画で進めるので、そちらにも反映していく。総合計画と総合戦略を分けてしまうと、行政、町民ともにわかりにくくなるため、どのように検証していくかが課題になる。今のところ、総合戦略は年に1回検証してもらうよう、進めていく予定である。
- 委員長： この戦略は平成31年度を目標としている。短い期間で取り組んでいくこととなるが、うまく第6次総合計画の中に組み込んでいけると良いと思う。
- 事務局： 第5次総合計画の検証も随時必要である。財政の問題もある。すべてやろうとすると難しい。財政負担がない取り組みを、どんどんやるのも手である。広域で行えるものは広域で、地区で行えるものは地区でやり、分担しつつやっていけば財政負担も軽く済むと考えている。
- 委員長： 他にご意見はないか。本日は最後なので、積極的にご意見をお願いしたい。
- 委員： 人口ビジョン(案)の16ページと17ページの推計パターンの社会移動の記載に、「移動率」と「純移動率」という、異なる表記がある。「純」という言葉があるとなのは違う。これは「移動率」でシミュレーションしているのか「純移動率」でシミュレーションしているのか、どちらなのか。
- 事務局： 15ページの第4章の垂井町の将来展望人口の、推計パターン・シミュレーション別に見た総人口の推移のグラフで、パターン1は社人研の推計、パターン2は日本創成会議推計で、純移動率を基に作成している。それを参考にして、シミュレーション1と2を示した。数値の考え方を16ページに記載している。今回の目標については、国や県に合わせた算出方法という事である。
- 委員： 21,000人についての社会動態は、「移動率」で計算をされているのか。
- 事務局： これについては、純移動率に修正して頂きたい。推計の過程の中では、自然増減の仮定値を抜いて行っている。文言については、確認し整合を図って修正していく。

- 委員： 総合戦略 21 ページの、ワーク・ライフ・バランスの推進の K P I であるが、「ペアクラス参加者数」の基準値と目標値が変化していないが、どうしてなのか。説明をいただきたい。
- 事務局： 平成 26 年度の基準値が 24 組、平成 31 年度の目標値が 24 組と同じ数値である。ペアクラスとは、保健センターで赤ちゃんと一緒に父親と母親が参加する事業であり、3 月・6 月・10 月に開催している。平成 25 年度は 22 組の参加であった。定員は 1 月あたり最大 8 組であり、平成 26 年度は 24 組の参加があった。この事業に関しては、少子化対策を進めるうえでより多くの人に参加していただきたく、参加者数を維持したいということで、数値を計上した。
- 委員： 将来に向けて参加者数を増やしたいなら、そういう記載をしたら良いと思う。
- 10 ページの農林業の振興のところで、K P I が「ほ場整備事業進捗状況」となっているが、もう一方で、林業の推進状況も評価されるべきだと思う。
- 事務局： 確かに農林業の「農」を中心に施策を進めており、「林」業についての取り組みが弱いという点は否定できない。現在、林業を生業とされる方は高齢化が進んでいる。山を守る事は、川や農地を守ることにつながる。そのためにも林業の整備を行っているが、一部であるので垂井町全体で考えていかなければならない。第 6 次総合計画にも取り入れていきたいと思う。
- 委員： 6 月の会議の立ち上げから、短期間で策定が進み、感心している。参加できたことを嬉しく思う。私は大垣市に住んでいるが、垂井町に勤務している。地域金融機関として町と深く関わり、町を大切に思う気持ちが強まった。これから金融機関として総合戦略に関わっていくことになるが、創業支援のところは目標が 3 件となっている。地域金融機関として、どのような手法で創業支援に関わっていけるかを親身に相談に乗り、夢を叶える部分で尽力していく。個人に対して充実した金融サービスを提供することとなる。その他に、企業誘致の情報などをネットワークで提供し、貢献できればと思っている。
- 最近の岐阜新聞で、岐阜経済大学の企画により、不破高等学校と不破中学校が垂井町の観光をどのように活性化させていくか検討しているという記事を読んだ。8 月に開催したワークショップでも学生のアイデアが大きかった。意見を出しただけでなく、垂井町として、総合戦略の中で反映させくことも必要だと思う。意見を取り入れていることを伝えて、還元していくことで、彼らが人口増加のキーとなっていくと思う。
- 事務局： 中学生のワークショップでそのような話もあった。皆さまの意見、ワークショップで出た意見、職員によるプロジェクトチームの意見は、最終的にすべての意見をまとめていくよう話はある。「出した意見はどこにいったのか」というのは私も感じている。第 6 次総合計画に関わるものも、できる範囲で意見を取り入れたい。
- 事務局： 週末の 2 日間で、「第 27 回ふれあい垂井ピア」が行われる。昨年は不破高校とまちづくりのなかで連携をし、協定も結んでいる。不破中学校、北中学校の生徒は、会場の清掃等やイベント手伝い、国際交流ブースなどで活動を拡大してもらっているということを報告させていただく。
- 委員： 不破高校生と岐阜経済大学の 5 大連携事業のことを盛り上げていただいた。岐阜経済大学へ不破高等学校の 2 年生が行き、垂井町の観光コースを検討しようということで、地図を使ったワークショップを行った。不破高等学校の生徒が作ったコースには、必ずベーカリーショップの「グルマンヴィダル」が入っていた。
- 行政は、そのような意見を吸いあげ、反映させていった方が良いとのことだが、まちづくりという観点で見ると、それぞれの立場で進めることが大切であると思う。この計画の策定に関わった人が、今後もまちづくりに継続して関わられるようにするしくみが必要である。
- 委員： 全体を通して私が大切だと思っているのが、16 ページの子育て・福祉である。しかし、21 ページのあたりでは、福祉の記述が薄いと感じる。高齢化社会において、健康寿命を延ばすことが人口維持につながるの、最も大切だと思う。今後、積極的に取り入れてもらいたい。地域包括支援センターも拡大していけるような体制をとれば、安心して住める垂井町につながっていくと思う。また、質問であるが、概要版の内容に変わりはないか。

事務局： 高齢者の健康寿命を延ばす取り組みについては、26 ページに入っている。委員の意見にあったように、福祉も大切であると気付くことができた。高齢者に対する生きがいづくりや健康づくりを取り入れることを検討していきたい。

概要版の扱いについては少々時間をいただきたい。町民の皆さまにはダイジェスト版で周知する。

委員： ふれあいプラザの「夢の屋」の運営は、このまま続けるのか。これに関わる人を育成し、次につなげることが大切だと思う。介護予防の推進や、在宅介護も項目に入れていただけるような対策もお願いしたい。

事務局： 「夢の屋」の運営については、月曜日から土曜日まで営業しており、1日30人の利用がある。参加する人の話を聞くと、毎日、顔を合わせるのが楽しみだという意見もあった。本年度10月1日より町の巡回バスの運行を開始した。バスを利用し、生きがいセンターに来ることを楽しみにしている人もいる。しかし「夢の屋」は後継者不足であるので、今後対策をとっていかねばならないと思っている。ふれあいプラザには高齢者だけではなく、様々な世代、特に若い人にも来ていただけるようなイベントの提案もし、運営方法を見直していきたい。介護については、法律が毎年のように変わっており、行政が対応についていくのも精一杯な状況である。その中で、何ができるのか検討していきたい。

事務局： 内容をすべて網羅するのは難しい。皆さまから意見を頂いたが、入っていないものも多くあり、疑問に思っている委員もいると思う。ビジョン・戦略の策定は企画調整課が行っているが、実行するのは各課である。垂井町全体で幅広く進め、第6次総合計画でも引き継いでいく。

委員： 新聞に、揖斐川町と養老町が総合戦略会議を行ったと載っていた。皆さまからの意見がたくさん出ていたが、総花的になるのは仕方ないと思う。肝心なのは実行である。どう実行していくかを考え、より有効的な計画にしていきたいと思う。

銀行は、町内の企業が活性化しないと活性化しない。町民等の悩みを聞きながらやっていきたい。

岐阜県と大垣共立銀行の移住定住の協定の中で、他県から岐阜県に定住する方に対して優遇したローンをつくり、人を呼び込むことをしている。西濃地方を活性化するというアピールで行っている。岐阜県の中でも定住移住の他に、垂井町を選んでいただけるようアピールすることが大切である。様々な連携も必要なので、私共も協力をし、一体となりよりよい垂井町を目指したい。

委員： 19 ページの3-[1]-4にもあるが、来年度から小学校と中学校が年10回程、土曜授業を実施する。私は宮代地区に住んでいるので、宮代小学校の校長と話をしている。いつも町長が言っている「ふるさとを愛する」ということを、学校でも取り組んでいる。「ふるさとの歴史を知る」をテーマに授業を行っており、各地区で子ども達がふるさとの歴史を知ることができるよう協力をしていきたいと思っている。

20 ページ3-[1]-4に「スクールアドバイザーの設置」とあるが、私は前職が教員であったので問題が多いのは知っている。本日の新聞記事でいじめの問題が載っていた。いじめ撲滅のために、スクールアドバイザーの人は難しいと思うが、素晴らしい案だと思うので、是非、実現に向けて取り組んでほしい。

パブリック・コメントにある道の駅についてだが、垂井町には道の駅がない。隣町の池田温泉の横に道の駅があるが、寂しい状態である。垂井町は国道もあり他県からの車も多く通るので、垂井町に道の駅があると町の活性化になると思う。

事務局： 貴重な意見をいただいた。難しい問題が多い。今後の課題とさせていただきます。

委員： 私は保育園に勤務しているが、幼少期から垂井町を愛する子どもが多く、大きくなったら垂井祭りに参加するのが夢だという園児もいる。小さいながら、垂井町のことを考えている子どもが多いと、仕事をしていて思った。垂井町では安心して子育てができるのではと思っている。

- 委員： 私も「実行していくこと」が大切だと思っている。町全体の盛り上がりが必要だと感じる。経営者の会で、総合戦略についてアピールをしているが、どう関わっていけばいいのか等、認識が薄い。
- また、当地域にない企業が、工場をつくりたいので、まとまった土地がないかと相談されたことがあった。立てた計画とリンクして行政も盛り上がる必要があると感じた。まち・行政・町民が一体となって取り組んでいくことが必要だと思う。
- 委員： 委員の意見にもあったように、住民がどのように参加していくのかが大切なので、いかに力を入れていくかだと思う。
- 住民とワークショップを行った時、みんながすごく楽しかったと感想を言っていた。まちづくりに参加する楽しさ、充実感のアピールをしていけたら良いと思う。
- 23 ページの数値目標に「まちづくりへの住民参加数」とあるが、どの世代が増えた方が良いのか、詳細がほしい。まちづくりの活動には 30 代が少ない。住民参加に力を入れてほしい。
- 垂井町らしさをアピールしていくには、マンボがある。マンボは地下水を集めて導水する一種の横井戸であることを説明すると興味を持ってもらえる。また、大学の研修で垂井町を案内しながらまち歩きをした際、雨やどり「夢の屋」に行った。後で聞くと、まち歩きの中でも「夢の屋」で地域の人と会話をしたことが一番楽しかったという感想が多かった。町内からの視点も良いが、まちづくりには外からの視点も多く取り入れられると良いと思う。
- 委員： 委員の意見でもあったように、実際どのように進めていくのかが大切だと思う。まちが変わったと感じていただけるようにしていくのが、尺度として重要だと感じる。アウトプットの際に、町民の笑顔につながるような結果にしていきたい。私は労働者の立場で参画している。垂井町はいろんな一面を持っており、多方面での連携が必要と感じる。今後はこの会のみならず、いろんな面での連携を求めたい。
- 委員長： 積極的な意見をいただいた。総合戦略会議も 4 回開催してきた。このような会議に参加していると、他市の取り組みにも興味を持ったと思う。広域連携と競争とがあり、難しい取り組みだ。これだけ多くの戦略をつくったので、どのように実行するのかが大切だ。最も大切なのは、2 ページの「P D C A サイクルの構築」と「住民参画による施策の推進」である。平成 23 年 4 月 1 日に施行され、各地区にまちづくり協議会が発足した。まちづくり協議会が、総合戦略を実現するための大きな力になると思う。
- 垂井町は多文化共生の面が弱い。「広報たるい」にも多言語のページができるくらいにできたら良いと思う。町だけで実行するものではなく、住民と一体となって実行するものである。あと 2 年任期があるので、今後は自発的に活発な意見交換をしていただき、積極的に関わってもらえると嬉しく思う。
- 事務局： 長時間にわたり、ありがとうございました。今後、各課で周知徹底をし、戦略を進めていく。また、来年度から予算を計上し、2 年後には第 6 次総合計画が始まる。皆さまの任期は平成 29 年 3 月末までなので、どうぞよろしくお願ひしたい。

以上